

使用機器 プリ=アキュフェーズC280V アナログプレーヤー=マイクロ5000+FR64 S+アントレーLP25+FR-XF1  
CDプレーヤー=TEAC VRDS-25SX CDレコーダー=TEAC RWD-280

《 楽器の珍しい組み合わせと珍しい楽器による、名曲、名演、名録音 》  
マラン・マレ(1656~1721)  
ヴィオールを天使のように弾くと讃えられた、フランス・バロックの巨匠

1. オーボエとオルガンの二重奏

“スペインのフォリアによる30の変奏” から フォリア~16の変奏~フォリア・・・

[11:32]

ハンス・エルホルスト(オーボエ) ギュンター・フェッツ(M・フリュガー 1994年作オルガン)  
1995年録音 CD EDITION·CLARINO EC-44

J·S·バッハ(1685~1750)

2. ペダル・チェンバロ

第1番 変ホ長調 BWV525から 第1楽章〔アレグロ〕・・・

トリオ・ソナタ

[2:55]

パワー・ビッグス 当時アメリカのオルガン奏者の第一人者だった彼だけが、足鍵盤を持ったこの楽器を弾いていました

1966年録音 原盤LP COLUMBIA/CD=SONY·CLASSICAL SBK60290

ラウテン・ヴェルク(Lauten Werk)と言うガット(羊腸)弦を張った鍵盤楽器をケーテン時代のバッハが所持していたことを、三十数年前にアルヒーヴから出たN・イエペスのバッハ・リュート曲全集の解説書で知りました。この楽器が、バッハ生誕三百年記念にテオルボ(大型のリュート)・チェンバロ、没後二百五十年記念にリュート・チェンバロの名称で復元され、初録音が実現しました。金属弦のチェンバロの華やかな音色とは違った、ガット弦の柔らかく豊麗な音色が聴き處で、ジャコッテとヒルのこのCDは、曲の良さ、鮮やかな演奏、素晴らしい録音と三拍子揃った20世紀棹尾の一振です。

3. テオルボ・チェンバロ

クリスティアーヌ・ジャコッテ ルドルフ・リヒター 1986年製作  
1988年録音 CD SAPHIR INT-830·850

組曲 ホ長調 BWV1006a(無伴奏ヴァイオリン・パルティータ第3番のリュート版)から  
第3曲 ガポット・アン・ロンド・・・[3:12]

4. リュート・チェンバロ

ロバート・ヒル キース・ヒル(ロバートの兄弟) 1995年製作  
1999年録音 CD HÄNSSLER 92·109

プレリュード ハ短調 BWV999・・・[1:36]

組曲(断片) ヘ短調 BWV823 プレリュード・・・[2:09] サラバンドとロンド・・・[2:26]  
ジーグ・・・[2:33]

5. ツインバロム 二重奏(共鳴箱に張られた弦をバチで弾くハンガリーの民族楽器)

ゴールドベルク変奏曲 BWV988 主題のアリア・・・アグネス・ザッカリーエ・ローザ・ファルカス・・・[3:36] |  
終曲のアリア・・・ローザ・ファルカス/アグネス・ザッカリーエ・・・[2:33]  
1998年録音 CD HUNGAROTON CLASSIC HCD31764

W·A·モーツアルト(1756~1791)

6. チェレスタ

(グラス・ハーモニカのための) アダージョとロンド ハ短調 K617・・・[10:18]

リリー・クラウス(チェレスタ) シャン・ピエール・ランパル(フルート)

ピエール・ピエルロ(オーボエ) ピエール・パスキエ(ヴィオラ) エチェンヌ・パスキエ(チェロ)

仏 MONOオリジナルLP LES·DISCOPHILES·FRANCAIS DF-20016  
1956年 モーツアルト生誕200年記念録音 録音担当=アンドレ・シャルラン

この曲は1791年春若き女流グラス・ハーモニカ奏者マリアンヌ・キルヒグスナーの依頼で創られたとか。グラス・ハーモニカは足踏みで回る幾つかのガラスのコップに濡れた指を当て音を出す楽器ですが、奏者が精神異常をきたすとかでスタれましたが、流石アルヒーヴ! 1950年代中頃ホフマンと言う奏者を起用し録音しましたが、これがなんとも非道いモーツアルトだった記憶があります。ここではリジー・クラウスがグラス・ハーモニカに替えてチェレスタを弾いています。彼女がピアノ以外の楽器で録音した唯一のレコードのはずで、日本では昭和30年代に東芝エンジエルから“パリのモーツアルト・シリーズ”の一枚として出ていました。